

平成31年度全国学力・学習状況調査の結果について

鹿角市教育委員会

I 実施の状況

1. 調査の目的

- (1) 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 各教育委員会、学校等が、(1)及び(2)の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 実施対象学年…小学校第6学年、中学校第3学年

3. 調査の内容

- (1) 教科に関する調査
 - 小学校：国語、算数
 - 中学校：国語、数学、英語
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

4. 実施期日…平成31年4月18日（木）

II 教科に関する調査の結果（「全国」は公立学校を対象にした結果）

1 教科別平均正答率について

小学6年生		国語 (14問)	算数 (14問)		平 均
全国		63.8	66.6		65.2
県	平 均	74.0	70.0		72.0
	全国比	+ 10.2	+ 3.4		+ 6.8
市	平 均	69.0	68.0		68.5
	全国比	+ 5.2	+ 1.4		+ 3.3
	全県比	- 5.0	- 2.0		- 3.5

○概要

小学校では、例年同様全国平均正答率を上回っている。

中学校では、3教科ともに、平均正答率が全国平均を5.0ポイント以上、上回ったほか、県の平均正答率と比較しても、マイナスになる教科はなかった。

●課題となる点

小学校では、県の平均正答率を国語で5.0ポイント、算数で2.0ポイント下回っている。

中学3年生		国語 (10問)	数学 (16問)	英語 (26問)	平 均
全国		72.8	59.8	56.0	62.9
県	平 均	78.0	65.0	57.0	66.7
	全国比	+ 5.2	+ 5.2	+ 1.0	+ 3.8
市	平 均	78.0	66.0	61.0	68.3
	全国比	+ 5.2	+ 6.2	+ 5.0	+ 5.4
	全県比	0	+ 1.0	+ 4.0	+ 1.6

2 領域別の平均正答率について

小学校 国語	鹿角市	秋田県	全国
話す・聞く	79.6	81.8	72.3
書くこと	54.2	63.0	54.5
読むこと	84.3	87.7	81.7
言語事項	62.8	67.7	53.5
小学校 算数	鹿角市	秋田県	全国
数と計算	64.0	68.7	63.2
量と測定	53.9	55.1	52.9
図形	78.7	80.0	76.7
数量関係	69.6	72.4	68.3

中学校 国語	鹿角市	秋田県	全国
話す・聞く	78.5	76.9	70.2
書くこと	89.0	88.3	82.6
読むこと	77.3	77.3	72.2
言語事項	69.5	70.7	67.7
中学校 数学	鹿角市	秋田県	全国
数と式	70.2	69.4	63.8
図形	76.5	76.7	72.4
関数	50.6	44.2	40.8
資料の活用	60.0	62.5	56.3
中学校 英語	鹿角市	秋田県	全国
聞く	71.7	69.1	67.9
話す			
読む	61.6	58.4	55.6
書く	51.5	45.5	45.8

○概要

小学校では、国語の「書くこと」を除くすべての領域で全国の前平均正答率を上回っている。

中学校では、すべての領域で全国の前平均正答率を上回っている。また、国語の「話す・聞く」「書くこと」の2領域で、数学では「数と式」「関数」の2領域で、英語では3領域すべてが県の前平均正答率を上回っている。

●課題となる点

小学校では、すべての領域で県の前平均正答率を下回っている。特に、国語の「書くこと」では8.8ポイント下回っている。

中学校では、国語の「言語事項」、数学の「図形」と「資料の活用」で県の前平均正答率を下回っている。

Ⅲ 質問紙調査の結果

○概要

小・中どちらも、肯定的な回答の割合が県平均を下回る項目はあるものの、全国平均を上回っている項目が多く、児童生徒に望ましい生活習慣や学習習慣の定着が図られ、豊かな人間性等が育まれている状況を示す結果となって表れている。これらの成果は、家庭・地域・学校が一体となって醸成してきた教育環境の下で成し遂げられたものであると捉えている。

鹿角市教育委員会の施策である「夢創造 school 事業」や「ふるさと生き生きネットワーク事業」、「主体的・対話的で深い学び」の視点等と関連のある個別のデータについては以下のとおりである。

1 夢創造 school 事業との関わり

「将来の夢や目標を持っている」（当てはまる＋どちらかといえば、当てはまる）

○小学校 90.0%

○中学校 84.2%

（県 91.4% 国 83.8%）

（県 80.9% 国 70.5%）

2 ふるさと生き生きネットワーク事業との関わり

(1) 「今住んでいる地域の行事に参加している」(「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」)

○小学校 84.9%	○中学校 71.0%
(県 83.7% 国 68.0%)	(県 62.2% 国 50.6%)

(2) 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」(同上)

○小学校 65.5%	○中学校 61.4%
(県 73.8% 国 54.5%)	(県 60.8% 国 39.4%)

3 「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導の改善に関する状況

(1) 「学級の友達(生徒)との間で自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」(「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」)

○小学校 82.8%	○中学校 84.2%
(県 85.3% 国 74.1%)	(県 86.5% 国 72.8%)

(2) 「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか」(同上)

○小学校 92.2%	○中学校 87.7%
(県 92.4% 国 82.8%)	(県 87.6% 国 74.9%)

4 児童生徒の自己肯定感に関する状況

(1) 「自分には、よいところがあると思いますか」(「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」)

○小学校 89.3%	○中学校 83.7%
(県 89.2% 国 81.2%)	(県 82.8% 国 74.1%)

(2) 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」(同上)

○小学校 91.8%	○中学校 87.7%
(県 93.4% 国 86.1%)	(県 90.4% 国 81.5%)

IV 今後の市教委の施策の方向性

これまで取り組んできている施策がおおむね良好な成果につながっている。ただ、県平均と比較すると、小学校の方で低い項目が多く見られることから、継続してきた以下の事業の詳細について見直しを図りながら、一層の充実を図っていく。

- ・児童生徒学力向上対策事業(教科別学力検査、知能検査、学習集団アセスメントQU検査)
- ・外国語指導充実事業
- ・ふるさと・キャリア教育推進事業
- ・情報教育環境整備事業
- ・ふるさと生き生きネットワーク事業
- ・かづの夢創造 school 事業

また、メディアの適切な利用に関することや、望ましい生活習慣づくり等は、各校で行われている教育活動と家庭との連携の成果であることから、引き続き、適切な指導や取組が為されるよう、お願いをしていく。